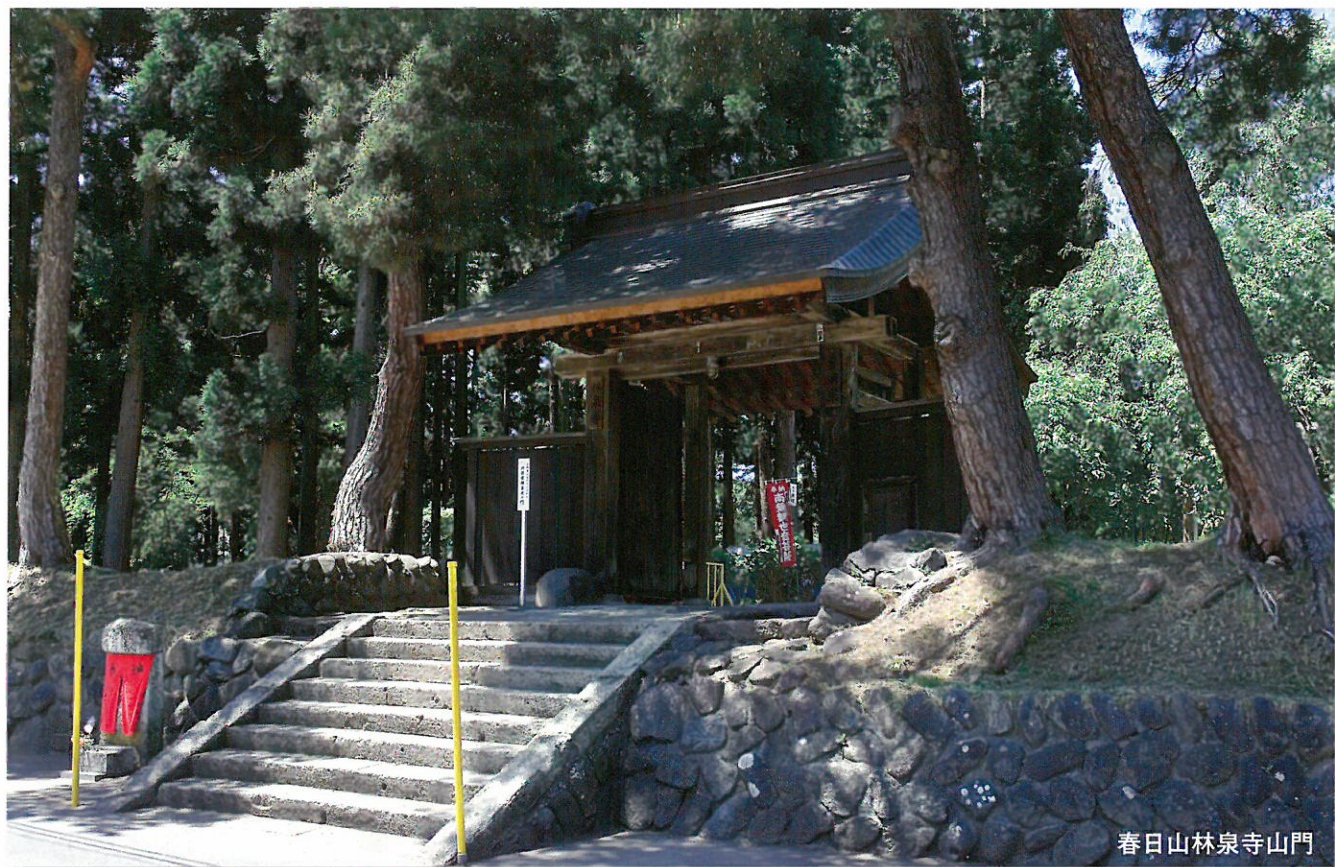


興道会だより

米沢仏教興道会 〒992-1443 米沢市大字笹野170番地 花の里内 TEL0238-38-3328 FAX0238-38-2198 発行責任者/玉木龍晃



春日山林泉寺山門

積厚流光

昨年末、日本漢字能力検定協会の公募により一年の世相漢字が「偽」と決定したとき、納得とともに、日本人のモラルの低下に落胆しました。
我が国の企業倫理が崩れた遠因として、終身雇用の崩壊によって会社または組織への忠節が嘗てより薄くなった、責任無き個人主義の蔓延だと思われま

す。
来年度のNHK大河ドラマで、郷土の英雄、直江兼統公が選定されましたのは、そうした世相に対して、主家である上杉家に忠実を貫いた義理堅さが選考した方の心を打ったものと思われま

す。その直江公が開削した堀立川で、毎年お盆に本会を母体とした米沢仏教興道青年会が、精霊流しに協力しています。今年三十周年を迎え、記念事業（堀内恒夫氏講演会）を挙行しようとしているのも仏縁を感じます。
また新潟県中越沖地震の被災者の方の復興に役立てようとい行いました「ののさま募金」に協力していただいた各聖・各位に、お礼申し上げます。公共・社会への倫理が求められている時代、私ども米沢仏教興道会の事業・活動の意義を改めて問われていると思います。昨年漢字「偽」から、今年社会への義を果たす「義」への転換していきたく思っています。今年度も社会福祉の担い手としての「義」をもって、職務を執行して下さることを御願いたします。

平成十九年二月吉日

米沢仏教興道会 会長 玉木 龍晃



4月 正会員会総会

6月14日(土) 第84回 花まつり
■時間/14:00~ 於:米沢市民文化会館

10月 秋季戦没者慰霊祭

12月 歳末助け合い募金(ののさま募金)

平成21年
3月1日 機関紙「興道会だより」第7号発刊

※上記の他、花まつり関係事業、検討諮問委員会、幹事会及び必要に応じて正会員会を開催。

平成19年度 事業報告

■とき/平成19年4月24日(火) ■時間/17:00~
正会員会総会 於:一つ待

■とき/平成19年6月9日(土) ■時間/14:00~
第83回花まつり 於:米沢市民文化会館

■とき/平成19年7月23日(月)
新潟県中越沖地震災害義援金(ののさま募金)

■とき/平成19年10月22日(月)
秋季戦没者慰霊祭 於:松原寺

■とき/平成19年12月9日(日) ■時間/16:30~
正会員会忘年会 於:一つ待

■とき/平成19年12月19日(水)
歳末助け合い募金(ののさま募金)

■とき/平成20年2月28日(木) ■時間/14:00~
正会員会・評議員改選 於:花の里

■とき/平成20年3月1日(土)
機関紙「興道会だより」第6号発刊

※その他、花まつり関係事業、幹事会、編集委員会等を開催。



米沢仏教興道会

浦安 真人



携帯語、ギャル語などいろいろな造語が氾濫している。意味不明なものもあるが「なるほど」と感心する造語もある。善し悪しは別として、日本人は本当に言葉遊びが好きである。言葉遊び同様に日々移行行く時代に多発する事件、事故が後を絶たない。心を痛めている人も多いはず。家庭内トラブルも多く、事態は深刻だ。混乱する時代を生きる私たちは、何を依りどころにしているのだろうか。
S M A P の歌に「世界でひとつの花」というのがある。「一人一人違う種を持つ」「小さい花や大きな花、一つとして同じものはないから。もともと特別な Only One」とある。違う種だから違う色の花が咲く。だからこそ「Only One」。そんな風に考えてみよう、と思う。
土浦市在住の画家、島崎昌美さんが「絵のある手紙を出版した。「人は花を選ぶが、花は人を選ばずに咲く、自然の恵みとはそういうことなのだろう」と書いている。家族といえども、個性をもつ集まりである。それぞれの色に咲いたらいい。自然な色の輝きを美しく感じる心を持ちたいものだ、と思う。花のように生きられたら、きつとゆつくりとした生き方ができるのではないだろうか。もっと聞く耳をもつて感性豊かに、のんびりと時代の流れを見届けながら生きたいものだ」と自戒を込めて、そう思う。



第二回 観音霊場巡り

サンスクリットではアヴァローキテーシュヴァラ (Avalokitesvara) と言え、「Ava あまねく」「lokiita 見る、見た」「svara 自在者」という語の合成語で、音韻変化 (lokiita + isvara → lokitesvara) を含んでいるとの説が現在では優勢である。玄奘三蔵による訳「観自在菩薩」はそれを採用していることになる。

鳩摩羅什 (くまらじゅう) の旧訳では観世音菩薩と言い、当時の中国大陸での呼称も、観世音菩薩であった。これには、観音経 (妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五) の趣意を取って意識したという説がある。また、中央アジア

で発見された古いサンスクリット語の「法華経」では、「Avalokitasvara」となっており、これに沿えば「avalokita 観」+「svara 世音」と解され、また古訳では「光世音菩薩」の訳語もあることなどから、異なるテキストだった可能性は否定できない。唐の二代目皇帝李世民の名から避諱により、「世」の文字は使用出来なくなったため、唐時代以後の中国大陸では、以後、観音菩薩と呼ばれるようになり定着した。玄奘三蔵 (げんじょうさんぞう) 以降の新訳では観自在菩薩と訳している。

日本における観音信仰は、大化の改新のころから観音像が見られることから、飛鳥時代には伝来していたとみられるが、仏や菩薩のご利益の特徴が理解され始めるのは、奈良時代になってからのようである。

当初は鎮護国家の利益を期待した天皇や貴族たちの観音であったが、「日本霊異記」にある

観音の節話のように、観音の名を称えれば七難からまぬがれるといった、危難を救い利益を与えてくれる菩薩として民衆のものとなって行ったようです。

観音経に説く観音の利益は観音の名を称えることにより、火・水・風・刀杖 (とうじょう) ・羅刹 (らせつ) (かさ) ・怨賊 (おんぞく) の七難を逃れ、また観音を心に念ずることにより、貪 (どん) ・しん・痴の三毒を離れるという。そして観音を礼拝すれば、二球両願を満足させるという、至れり尽くせりの現世利益をいいます。

また更に観音は、救うべき相手に応じて仏身のほか王や龍や夜叉に至るまで、三十三種類の姿に変えてまで衆生を救う『観音の三十三身』の方便力を駆使するという。自在の力で人々とあらゆる苦悩を救うのである。

八番 聖観世音

東寺町 高岩寺



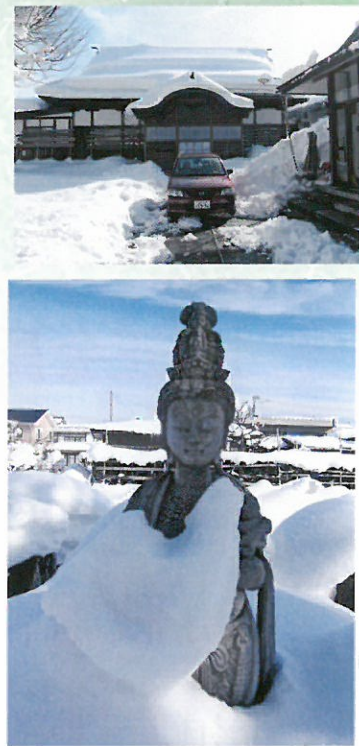
いくたびも
まいるころは かるくとも
ちかいはおもき めぐみなるらん

九番 聖観世音

東寺町 眞福寺



うんりうの
たまにこひさい のぼるとや
ほとけをたのむ みこそやすけれ



十番 聖観世音

東寺町 龍泉寺

ぎやくゑんも
むらさですくう かんぜおん
ざんれいすれば 二世もあんらく

十一番 夕顔聖観世音

今町 茂林寺

よもすがら
月もろともに おがみみは
まよひのくもに はれてこそゆけ



歳末助け合い募金活動

(ののさま募金) の御礼について

この度は歳末助け合い募金活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。

お陰様で十二月十九日(水)にお忙しい中、駆け付けていただいた会員御寺院様、各保育所・老人ホームの利用者と職員の皆様の善意は、総額十四万円もの募金浄財となりました。皆様のあたたかいご協力で厚く御礼申し上げます。

尚、集まった募金浄財は十二月二十一日に玉木会長より米沢市社会福祉協議会を通じて「歳末助け合い募金」に寄付いたしましたことをご報告いたします。

今後皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

合掌



募金浄財総額 一四一、七〇〇円



米沢札所 三十三観音

米沢札所



- 一番 千手観世音 笹野山 幸徳院
- 二番 馬頭観世音 七軒町 常安寺
- 三番 十一面観世音 馬喰旁町 彌勒院
- 四番 聖観世音 七軒町 照陽寺
- 五番 聖観世音 東町 昌傳庵
- 六番 千手観世音 大町 庚申堂
- 七番 千手観世音 東寺町 輪王寺
- 八番 聖観世音 東寺町 高岩寺
- 九番 聖観世音 東寺町 眞福寺
- 十番 聖観世音 東寺町 龍泉寺
- 十一番 夕顔聖観世音 今町 茂林寺
- 十二番 如意輪観世音 東寺町 極楽寺
- 十三番 聖観世音 今町 元極楽寺(現町内)
- 十四番 如意輪観世音 東寺町 王圓寺
- 十五番 聖観世音 東寺町 観音寺
- 十六番 如意輪観世音 桶屋町 大正寺
- 十七番 聖観世音 花沢 常信庵
- 十八番 聖観世音 鍛冶町 高国寺
- 十九番 聖観世音 免許町 海應院
- 二十番 如意輪観世音 東寺町 成就院
- 二十一番 聖観世音 北寺町 透林寺
- 二十二番 千手観世音 北寺町 西蓮寺
- 二十三番 如意輪観世音 北寺町 関興庵
- 二十四番 聖観世音 銅屋町 正福寺
- 二十五番 聖観世音 桐西 寶幢院
- 二十六番 子育正観世音 北寺町 天正寺
- 二十七番 千手観世音 北寺町 禪透院
- 二十八番 子育正観世音 北寺町 轉輪寺
- 二十九番 千手観世音 龍言寺町 龍言寺
- 三十番 聖観世音 林ノ町 北野庵
- 三十一番 火防正観世音 番正町 松原寺
- 三十二番 聖観世音 御守町 法泉寺
- 三十三番 聖観世音 大町 熊野堂